

# 藝園草牧



長部長沼子内一〇六六  
雪印種苗株式會社  
中央研究農場





温室内の雑種玉葱採種用両親系統とジョーンズ博士

(Dr. H. A. Jones and his hybrid onions at U. S. D. A. Plant Industry Station June 5, 1953.)

# H. A. ジョーンズ博士と 雑種玉葱

岩 垣 駛 夫

アメリカの玉葱の種子はやがて全部が一代雑種種子になるだろうといえ、まさかと思われる方が多いであろう。しかしすでに種苗商のカタログに玉葱の一代雑種種子が出ているし、アメリカの玉葱の種子は年と共にどんどん一代雑種におきかえられることだと思

う。玉葱の一代雑種の研究は一九二五年に始まる。この年の八月加州デピスの加州大学農学部で玉葱の育種畑で花粉の出ない、すなわち雌性不稔のイタリアン・レッド・一三―一五三 (Italian Red 13-53) が発見され、それ以来ジョーンズ博士 (Dr. H. A. Jones) とその協力者により雑種玉葱の研究が進められたのである。

まず他の品種との間に交配が行われ、その中からロード・ホウ・アイランドとイタリアン・レッド・一三―一五三との「F<sub>1</sub>」が、カリフォルニア・ハイブリッド・第一として紹介された。しかし直交一代雑種のために雑種玉葱は著名なのではなく、このくわしい説明は省略するが、イタリアン・レッド・一三―一五三の雌性不稔性は、これに他の経済品種のあるものを交配すると「F<sub>2</sub>」はすべて雌性不稔であり、このようなものは何回交配種を戻し交配しても雌性不稔を続けるのである。従って何

回か父品種を戻し交配することにより、玉の形質が限りなく父に近づくので、多くの品種に实际的に雌性不稔系を育成でき、これが種子により維持できるので、多くの品種の間に容易に「F<sub>1</sub>」を作り得るようになったのである。温室で行う数多くの組合せの花粉交配には、特別にその目的に飼育した蠅を使用している。

故ローザ博士とともに名著「トラック・クロープ」の著者であるジョーンズ博士はほとんど三〇年を雑種玉葱の研究に打込んでいる。戦後日本に來ていた米国中央農研の蔬菜部長ボスウェル博士は「ジョーンズ博士は偉大な人だ。雑種玉葱の研究はまた偉大な仕事だ。いまにストロベリー・アイスクリームやパイナップル・アイスクリームがあるように、ジョーンズ博士の玉葱の中からオニオン・アイスクリームさえできることになるだろう。品質においてもわれわれの期待するあらゆるものができつつある。」とのことであつた。この表紙の写真は一九五三年六月五日首府ワシントンよりバスで三〇分の距離にあるメリーランド州ベルツピルの米国国立中央農業研究所を訪ね、数時間をジョーンズ博士と雑種玉葱育種温室の中で過したとき写したものである。(筆者・農博・福島園藝試験場長)